

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2024 年 3 月」

2024 年

- 3 月 1 日 午前 5 時 43 分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 5.2 と推定。埼玉県さいたま緑区、千葉県東金市、市原市、山武市、大網白里市、一宮町、白子町。長南町で震度 4、茨城県土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、常総市、笠間市、取手市、牛久市、つくば市、茨城鹿嶋市、潮来市、筑西市、坂東市、稲敷市、かすみがうら市、神栖市、銚田市、つくばみらい市、小美玉市、美浦村、阿見町、河内町、埼玉県さいたま大宮区、さいたま浦和区、さいたま南区、春日部市、宮代町、杉戸町、千葉県千葉中央区、千葉花見川区、千葉稲毛区、千葉若葉区、千葉緑区、千葉美浜区、市川市、船橋市、松戸市、野田市、茂原市、成田市、千葉佐倉市、旭市、習志野市、柏市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、匝瑳市、香取市、いすみ市、栄町、神崎町、多古町、九十九里町、芝山町、横芝光町、睦沢町、長生村、長柄町、東京都荒川区、足立区、葛飾区、神奈川県横浜港北区で震度 3。
- 3 月 1 日 日本原電が、2 月に敦賀原発 1 号機タービン建屋内の空調設備で発生した火災について、設備に取り付ける部品の取り違えが原因だったとした。今後使用せず 2025 年 1 月以降に新品に取り換える方針。
- 3 月 1 日 福島第一原発事故で避難指示区域に一時指定された川俣町山木屋で暮らしていた住民らが、東電に対して生活を奪われた慰謝料などを求めた訴訟で、総額約 11 億円の支払いを命じた仙台高裁判決が確定した。
- 3 月 2 日 午前 1 時 49 分ごろ、千葉県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 5.0 と推定。千葉県千葉若葉区、いすみ市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長南町で震度 4、千葉県花見川区、千葉美浜区、船橋市、茂原市、成田市、東金市、習志野市、勝浦市、市原市、鎌ヶ谷市、君津市、山武市、大網白里市、九十九里町、長柄町、大多喜町で震度 3。
- 3 月 2 日 午前 3 時 38 分ごろ、千葉県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 3.8 と推定。千葉県一宮町、睦沢町、長南町で震度 3。
- 3 月 2 日 韓国が初めて海外に輸出した原発、アラブ首長国連邦バラカ原発 4 号機

の原子力出力が 100%になった。韓国電力)が最初に輸出した韓国型原発の 1400 メガワット級。アラブ地域初の商業用原発。

- 3 月 2 日 20 時 23 分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.1 と推定。栃木県下野市で震度3。
- 3 月 2 日 23 時 00 分ごろ、宮崎県北部平野部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.3 と推定。宮崎県延岡市、門川町で震度4, 宮崎県日向市、川南町、宮崎都農町、宮崎美郷町で震度3。
- 3 月 3 日 17 時 32 分ごろ、青森県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.7 と推定。青森県八戸市で震度3。
- 3 月 4 日 17 時 31 分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.3 と推定。石川県輪島市、志賀町で震度3。
- 3 月 5 日 テロ対策上の問題が相次いだ柏崎刈羽原発について、東京電力が IAEA に依頼し、対策の改善状況を現地で調査してもらったうえで、評価や助言を受けることになった。
- 3 月 6 日 17 時 09 分ごろ、千葉県北東部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 3.3 と推定。千葉県大網白里市で震度3。
- 3 月 7 日 大分県の住民らが伊方原発3号機の運転差し止めを求めている裁判で、大分地方裁判所の武智舞子裁判長は「中央構造線が活断層ではないという評価や、巨大噴火の可能性が十分小さいと判断できることには合理性があり、原告らの生命などに具体的な危険があるとは認められない」などとして、原告側の請求を棄却した。
- 3 月 7 日 石川県が、志賀原発で事故が起きた際に高齢者や障害者が放射性物質から身を守る県内 20 の「放射線防護施設」のうち、14 施設が能登半島地震で被災し、6 施設が防護に支障が来す程度の損傷だったとした。
- 3 月 7 日 14 時 25 分ごろ、宮崎県北部平野部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 3.0 と推定。宮崎県門川町で震度3。
- 3 月 7 日 15 時 41 分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.3 と推定。石川県輪島市で震度3。
- 3 月 7 日 17 時 14 分ごろ、宮崎県北部平野部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは 4.0 と推定。大分県佐伯市で震度3。
- 3 月 7 日 北陸電力が、能登半島地震で変圧器が故障するなどの被害が出た志賀原発を公開した。公開したのは油漏れが起きた 1、2 号機の変圧器計 2 台や、地震の揺れで水があふれた使用済み核燃料プールなど。2 号機の変圧器の故障が原因で、5 系統ある外部電源のうち 2 系統が使えなくなっている。

- 3月7日 IAEA理事会が、ロシアにウクライナ南部ザポロジエ原発からの退去を求める決議を採択した。理事会が同原発に対するロシアの行為を非難する決議を採択するのは4回目。
- 3月8日 ウクライナのハルシチェンコ・エネルギー相が、ロシア軍の制圧下にあるウクライナ南部のザポロジエ原発の安全性が日々悪化していると述べた。
- 3月8日 九州電力が、玄海原発3、4号機の基準津波を修正する方針を明らかにした。政府の地震本部が2022年に公表した日本海南西部の海域活断層長期評価を踏まえて検討した結果、想定される津波が既存値を上回ることが分かったとする。
- 3月9日 午前2時55分ごろ、紀伊水道を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.6と推定。和歌山県和歌山市で震度3。
- 3月9日 午前4時26分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。千葉県一宮町、長南町で震度4、千葉県茂原市、勝浦市、市原市、いすみ市、大網白里市、九十九里町、睦沢町、長生村、白子町、大多喜町で震度3。
- 3月9日 14時18分ごろ、浦河沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.5と推定。北海道厚真町、安平町、むかわ町で震度3。
- 3月11日 東京電力福島第一原発事故から13年。今も、放射能汚染により広い範囲で避難指示が出た福島県からは2万人以上が県外での避難生活を続けている。
- 3月12日 12時27分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.2と推定。千葉県長南町で震度3。
- 3月13日 福島第一原発事故で避難した富岡町などの住民が東電に慰謝料などの損害賠償を求めた訴訟で、地裁いわき支部の三井大有裁判長が、東電に計約5700万円を賠償するよう命じた。
- 3月13日 原子力規制委員会が、運転開始から30年となる玄海原発3号機の高経年化対策に関する保安規定の変更を認可した。九電は認可を受けたことで、3号機の運転継続が可能となる。
- 3月13日 20時24分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。福島県楡葉町で震度4、福島県いわき市、古殿町、福島広野町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、茨城県日立市、北茨城市で震度3。
- 3月14日 中部電力が、浜岡原発で想定する最大の津波の高さを、従来の22.7メートルから25.2メートルに引き上げると発表した。

- 3月14日 日本原子力研究開発機構の退職者6人が、原子力の研究開発に反対する勢力として昇任や異動などに関わる差別的扱いを受けたとして、約1億6300万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、水戸地裁は5人の訴えを認め機構に約4700万円の支払いを命じた。
- 3月14日 上川外務大臣とIAEAのグロッシ事務局長と会談し、福島第一原発の汚染処理水の海洋放出を巡り、今後も高い透明性を持って連携していくことを確認した。加えて、IAEAが推進する原子力技術を活用した品種改良や害虫対策、食料の安全強化などを後押しするために約30億円の支援を表明した。
- 3月14日 四国電力の伊方原発2号機で、配管設備の一部からホウ酸水が漏れた。ホウ酸水は使用済み燃料ピットの水位が下がった際の給水や核分裂反応を抑えるためのもので、およそ150ミリリットルが漏れているのが見つかった。配管設備の部品の傷が原因だったという。
- 3月15日 午前0時14分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.8と推定。福島県川俣町、楡葉町で震度5弱、宮城県仙台青葉区、白石市、名取市、角田市、岩沼市、蔵王町、大河原町、村田町、宮城川崎町、丸森町、亶理町、山元町、福島県福島市、郡山市、いわき市、白河市、須賀川市、相馬市、二本松市、田村市、南相馬市、福島伊達市。本宮市、桑折町、国見町、大玉村、鏡石町、天栄村、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、石川町、玉川村、浅川町、古殿町、三春町、小野町、福島広野町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村、茨城県北茨城市、栃木県大田原市、那須町、那珂川町で震度4、東日本広域で震度3。
- 3月15日 東京電力が、福島県で午前0時14分ごろに震度5弱の地震が発生すると、指針に従い汚染処理水の海洋放出を午前0時33分頃に手動で停止させた。汚染処理水の放出が中断されたのは今回が初めて。
- 3月15日 中部電力が、浜岡原発1号機と2号機で進められている廃炉の完了時期について、当初の2036年度から2042年度に6年延期するとした。
- 3月15日 IAEAのグロッシ事務局長が来日の全日程を終え、福島第一原発の汚染処理水放出では、積極的に関与する姿勢を示した。
- 3月15日 運転開始から40年を超えて再稼働した美浜原発3号機について、大阪高等裁判所の長谷川浩二裁判長は、老朽化による事故の危険性などを主張して運転しないよう求めていた仮処分の申し立てを退ける決定をした。
- 3月15日 巨大地震が起きた際の津波に備えて、福島第一原発で建設していた最大16メートルの防潮堤が完成し公開された。

- 3月15日 小早川智明東京電力社長が、斎藤健経済産業相と面談し、柏崎刈羽原発再稼働に向けて立地自治体の理解を得るため、国際原子力機関(IAEA)の調査を受け入れると報告した。
- 3月15日 関西電力が、福井県内の原子力発電所に使用済み核燃料を一時的に保管する「乾式貯蔵施設」を設置する計画について、設置に向けて国に審査を申請することを了承した。
- 3月15日 福島県沖を震源とする最大震度5弱を観測した地震の影響で、停止していた処理水の放出を15時49分に再開した。
- 3月15日 19時32分ごろ、奄美大島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.5と推定。鹿児島県奄美市、喜界町で震度4、鹿児島県十島村、瀬戸内町で震度3。
- 3月15日 19時34分ごろ、奄美大島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。鹿児島県奄美市、喜界町で震度3。
- 3月17日 午前6時17分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.4と推定。福島県檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町で震度4、宮城県岩沼市、蔵王町、大河原町、福島県郡山市、いわき市、白河市、須賀川市、相馬市、田村市、南相馬市、国見町、天栄村、泉崎村、中島村、古殿町、小野町、広野町、川内村、浪江町、茨城県日立市、笠間市、栃木県大田原市、市貝町、那須町で震度3。
- 3月17日 東京電力が、福島第一原発の汚染処理水について、今年度最後となる4回目の放出を完了したと発表した。
- 3月17日 茨城県大洗町日本核燃料開発が、15日午後3時50分ごろ、材料研究棟の精密測定室でエタノールにナトリウムを溶かし反応を調べる実験中に火災が発生していたと発表した。社員が消火器による消火活動後、到着した消防が火災と認定した。放射性物質の漏えいや環境への影響、人の汚染・被ばくはないという。
- 3月18日 午前2時25分ごろ、福島県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。福島県大熊町で震度3。
- 3月18日 福島第一原発事故で福島県から県外への避難を強いられた住民が国と東電に損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決で、仙台高裁の瀬戸口壮夫裁判長は、一部の原告に対して古里喪失慰謝料の増額を認め、計約1億5800万円を支払うよう東電に命じた。一審判決に続き、国の責任は認めなかった。
- 3月19日 活断層に関する新たな見解を元に、玄海原発に到達する最大の津波の高さを計算した結果、これまでの想定より2メートル余り高くなったと原子力

規制委員会に報告した。敷地の高さなどに余裕があり、追加の対策の必要はないとするが、規制委員会は今後の審査で確認していく方針。

- 3月19日 伊方原発3号機で、原子炉に注水するためのポンプなどを動かす電気ケーブルについて、十分な火災対策が取られていなかったことが原子力規制庁の検査で判明した。検査の過程で四国電力が誤った説明をしていたことも分かり、規制庁は今後、改善状況を確認していくと通知した。
- 3月21日 午前9時08分ごろ、茨城県南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.3と推定。栃木県下野市、埼玉県加須市で震度5弱、茨城県土浦市、古河市、石岡市、下妻市、常総市、笠間市、筑西市、坂東市、桜川市、つくばみらい市、八千代町、栃木県宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、真岡市、益子町、壬生町、野木町、群馬県館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町、埼玉県さいたま大宮区、さいたま見沼区、さいたま浦和区、さいたま南区、さいたま緑区、川口市、行田市、春日部市、羽生市、鴻巣市、桶川市、久喜市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町、千葉県野田市、鎌ヶ谷市で震度4、福島県から長野県までの広域で震度3。
- 3月21日 福島第一原発事故で、兵庫県に避難した福島県の被災者が国と東電に計約6億9100万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、神戸地裁の龍見昇裁判長は、東電のみに賠償を命じ、国への請求は退けた。
- 3月21日 IAEAと欧州連合理事会の議長国ベルギー政府が、初の「原子力エネルギーサミット」をブリュッセルで開催した。日本を含む30カ国以上から政府関係者などが参加し、「クリーンなエネルギー」として原子力の拡大を呼びかける共同宣言を採択した。
- 3月22日 北海道電力が、泊原発の津波対策として新たな防潮堤の設置工事を年3月28日から開始する。これまでの防潮堤は、高さは16.5メートル・幅22メートルだったが、最大津波が高くなる可能性あり、新たな防潮堤は全長約1.2キロ・高さ海拔19メートル・幅最大30メートルで、工事費は約1800億円を見込んでいる。
- 3月22日 ロシアが、ウクライナ最大のダムなど各地のエネルギー施設に対するミサイル攻撃を実施した。ウクライナでは約100万人が電気の届かない状態になり、ザポリジヤ原発も、一時的に主要電源との接続が断たれた。
- 3月23日 午前8時31分ごろ、岐阜県美濃中西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。岐阜県揖斐川町で震度4、岐阜県関市、美濃市、岐阜山県市、本巣市、愛知県一宮市で震度3。
- 3月23日 関西電力が、高浜原発と美浜原発で発生した低レベル放射性廃棄物を、来週にかけて、青森県六ヶ所村の埋設センターへ輸送する。

- 3月24日 日本時間午前5時22分ごろ、ニューギニア付近(パプアニューギニア、ニューギニア)を震源とするマグニチュード7.0の地震が発生した。
- 3月24日 15時53分ごろ、石川県能登地方を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは2.8と推定。石川県輪島市で震度3。
- 3月25日 IAEAの専門家チームが、テロ対策の不備が発覚した柏崎刈羽原発を訪れ、国際基準に基づいて改善されたかどうかを確認する調査を始めた。
- 3月25日 原子力規制委員会が、浜岡原発を現地調査し、過去の津波による堆積物を調べた。3、4号機再稼働の前提となる新規規制基準審査の一環。
- 3月25日 北陸電力が、能登半島地震で志賀原発に到達した津波が、海岸部分をおよそ4メートルの高さまで駆け上がったとみられると発表した。敷地の高さは11メートルあり、原発の安全性に影響はなかったとしている。また、敷地内を測量した結果、地震前と比べ平均4センチの沈下を確認したとも発表した。さらに、2号機の変圧器の内部で新たな破損が見つかった。油漏れの影響で放電が起きたためとしている。
- 3月26日 定期検査のため出力を下げていた玄海原発4号機で、18時26分から出力を下げていたところ、20時32分に定めている偏差を一時的に超えたため、警報が発信した。8分後に規定の数値を下回った。
- 3月27日 青森県むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設を運営するリサイクル燃料貯蔵(RFS)が、柏崎刈羽原発の使用済み核燃料を7~9月に搬入し、中間貯蔵の事業を開始する計画を青森県の宮下宗一郎知事に報告した。
- 3月27日 能登半島地震による停電で、柏崎刈羽原発周辺に新潟県が設置した放射線量測定のためのモニタリングポスト1カ所が一時機能していなかったことを原子力発電所周辺環境監視評価会議で新潟県が報告した。
- 3月27日 九州電力が、玄海原発4号機の定期検査を開始した。6月下旬までの予定で通常運転に戻る見込み。
- 3月28日 東京電力が、柏崎刈羽原発7号機の原子炉に検査のため、4月15日から核燃料の装填を始めることを原子力規制委員会に申請した。
- 3月29日 北海道電力が、保有するウランの一部を売却すると発表した。売却益は約93億円で、2025年3月期決算に計上する見込み。
- 3月29日 運転開始から40年前後が経過した美浜原発3号機、高浜原発1~4号機について、安全対策が不十分だとして、地元住民らが運転差し止めを求めた2件の仮処分申請で、福井地裁の加藤靖裁判長は差し止めを認めなかった。
- 3月29日 九州電力が、次年度の玄海原発の新燃料などに関する輸送計画を発表した。3号機に新燃料を搬入するほか、低レベル放射性廃棄物1720本分

を 25 年 2 月に日本原燃の低レベル放射性廃棄物埋設センターに搬出する。